

地域と考えるミネベアミツミグループのCSR ～ミツミ電機 千歳事業所～



ダイアログ参加者一覧

千歳市の皆様

市長	山口 幸太郎 氏
副市長	横田 隆一 氏
産業振興部長	島倉 弘行 氏
産業振興部産業支援室長	品田 雅俊 氏
産業振興部産業支援室企業振興課長	澤田 篤 氏
産業振興部産業支援室科学技術振興課長	林 博樹 氏
産業振興部産業支援室企業振興課企業振興係長	塚田 啓介 氏
産業振興部産業支援室企業振興課企業誘致係長	井戸川 邦彦 氏
企画部秘書課長	堀田 裕 氏

千歳科学技術大学の皆様

学長	川瀬 正明 氏
専務理事	渡邊 信幸 氏

ミネベアミツミ、ミツミ電機

常務執行役員 人事総務本部長	松田 達夫
半導体事業部 事業推進部長	久米 卓史
半導体事業部 ウエファ製造部長	坂井 司
半導体事業部 事業推進部 次長	橋本 稔
半導体事業部 事業推進部総務課長	平井 睦雄
CSR推進室 室長	石河 正樹
CSR推進室 主任補	越後 麗湖

進行役

株式会社クレアン コンサルタント	富田 洋史 氏
------------------	---------

※参加者の役職は開催時のもの(2018年5月22日)

2018年5月、ミツミ電機の千歳事業所(北海道千歳市)にて、地域の方々にご参加いただいたの
ステークホルダー・ダイアログを開催しました。

今後の連携や協力についてさまざまな意見や提案が出され、活発な議論となりました。

はじめに

松田 本日はお忙しい中をありがとうございます。2017年1月、ミネベア株式会社は、ミツミ電機株式会社と株式交換を通じて、同社を完全子会社化し、経営統合をしました。これに伴い「ミネベアミツミ株式会社」が誕生しました。現在、世界17カ国に64の製造拠点がおり、その一つがここ千歳事業所です。

ミネベアミツミの社是である「五つの心得」の一つに「地域社会に歓迎されなければならない」というものがありま

す。この心得のもと、地域社会との関係性を深めるべく、さまざまな地域貢献活動にも取り組んできました。今日は、ご参加いただきました皆様からのご意見・ご要望を今後の活動へ生かすために、連携や協力をレベルアップしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ミネベアミツミ 松田

千歳事業所と地域のつながり

久米 千歳事業所は、1983年にこの地で操業を開始。以来35年間、半導体の製造を行っているものづくりの拠点です。従業員は現在500名弱ですが、特に前期、今期と非常に忙しい状況が続いており、人手不足が大きな課題になっています。



ミツミ電機 久米

橋本 地域とのかかわりでは、操業開始当時から「交通安全」に力を入れて取り組んでいます。従業員が街頭に立って交通指導を行うほか、啓発活動として、交通安全協会が募集する交通安全年間スローガンに、毎年応募しています。事業所内で選定した作品を千歳の交通安全協会に提出するのですが、ほぼ毎回何らかの賞を受賞して、市内各地に掲示いただいています。



ミツミ電機 橋本

環境関係では事業所内で回収したペットボトルのキャップやリングブルの社会福祉協議会への寄付、事業所周辺での清掃活動・フラワーポットの設置などを長年続けてきました。また、献血活動にも20年以上にわたり協力しており、2017年には日本赤十字社から「金色有功章」をいただきました。

山口氏 経営統合されましても引き続き千歳市との連携を深めてくださっていることに感謝申し上げます。日本を代表する企業の皆様が千歳で製造・営業活動をし、持てる技術や情報を世界に発信していただいていることが、千歳市の価値を高めることにもつながっていると感じています。



千歳市 市長 山口氏

地域をあげた働き方改革

山口氏 さて、千歳市が今、力を入れて取り組んでいるのが「働き方改革」です。いわゆる公務員倫理にのっとった改革だけではなく、働く人のライフスタイルに合わせた職場改革という観点が必要ではないかと考え、試行錯誤しているところです。職場改革は働き方改革、働き方改革は生き方改革だという思いで市内にイクボス※を増やすため、企業などへの普及を進め、仕事と家庭生活が調和し、心豊かに子育てなどができるまちの実現を目指して取り組んでいます。

※職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、キャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のこと。

横田氏 その一環として、2017年1月、市長以下幹部職員・管理職を対象とした「イクボス研修」を実施し、出席者全員で「イクボス宣言」を行いました。まずは職員の意識を変えることから始めようと、セミナー開催などの活動を始めています。



千歳市 副市長 横田氏

千歳事業所ではワークライフバランスに関する取り組みをどのように進めておられますか。

橋本 千歳事業所では、有給休暇の取得を推進しています。現状では平均して一人年間15日程度取得していますが、人による偏りがあるのは意味がありません。そこで全員が年間10日以上取得するという目標を立てました。また、残業時間についても、年間の目標時間を設定し、その時間以下にとどめようという取り組みをしています。

また、千歳事業所は女性従業員が少ないので取得されることがなかった育児休業についても、昨年初めての取得者が出ました。さらに今年は、男性従業員が取得予定です。少しずつではありますが、意識が根付いていると感じています。

横田氏 時代の要請でもありますが、できるだけ取り組みを進めていただきたいと思います。それが千歳市の「住みやすい、働きやすいまち」というイメージにもつながっていくとうれしいです。

災害時の協力体制構築を

島倉氏 このような場ですので、ぜひご協力をお願いしたいのが災害時の対応についてです。千歳市では、樽前山の噴火や地震、風雪害などを想定した「千歳市地域防災計画」を策定し、毎年、さまざまな関係機関にご協力いただきながら総合防災訓練を実施しております。



千歳市 産業振興部長
島倉氏

さらに現在、50の企業や商店、団体と、災害時の協力協定を締結しています。ミネベアミツミ様とは協力協定を結んでおりませんが、災害時の地域住民への物資の提供などでご協力をお願いしたいと思っています。

橋本 わたしたちの事業所も、地震や異常気象、火災、感染症といった非常事態発生時に、従業員を守り、事業を継続するためにどう行動すべきかをまとめたBCP(事業継続計画)マニュアルを策定しています。災害時には事業所内に災害対策本部を設置することになっています。その災害対策本部人員30名の約3日間の活動用、また帰宅困難になった従業員60名、社員寮の寮生100名への支給用に食料や水の備蓄をしています。数量的には多少多めに備えておりますので、いざというときには工業団地全体で活用いただくことは可能と考えております。

島倉氏 企業や事業所によってさまざまな特性があると思いますので、それを生かした部分での連携・協力を進めていければと思います。

横田氏 以前から参加いただいている「千歳工業クラブ」と千歳市は一昨年、連携協定を結ばせていただきました。各社の所有する物資や資源を包括的に活用させていただくという内容もその中に含まれていますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

産学連携で新たな価値を生み出す

川瀬氏 千歳科学技術大学は、1期生が卒業した2002年ころからミネベア様にも就職などでお世話になっており、今回の経営統合には非常にご縁を感じています。本学は2019年から市の大学法人として公立化が決定しています。貴社ともさらに充実した形で連携していけるのではないかと考えております。



千歳科学技術大学 学長
川瀬氏

山口氏 まさに産官学の連携で、いろいろな付加価値が生まれてくるのではないかと期待しています。千歳市としてもできる限り協力させていただきますので、ぜひ貴社からのご提案やご要望をお願いします。

川瀬氏 例えば今、文部科学省が進める「ナノテクノロジープラットフォーム」は、全国25カ所の拠点に、高度な分析機器などを設置し、企業に使ってもらうという取り組みです。わたしたちの大学もこの拠点の一つとなっており、市内の企業さんにも利用いただいております。貴社にもぜひ利用いただきたいと思います。



ミツミ電機 坂井

坂井 実際に、担当者レベルではお願いしたいという話が進んでいますので、ぜひこれからよろしくお願いいたします。

地域人材に活躍いただく

川瀬氏 また、これまで本学の卒業生十数名が貴社に就職させていただいているのですが、ここ5年ほどは実績がありません。これを機に、採用面でも関係を再構築させていただければと思います。インターンシップや情報交換会などの取り組みも進めておりますので、それをきっかけにいただければ幸いです。

松田 2018年4月入社ではグループ全体で新卒を120名採用、そのほかに前期は中途で150名を採用しました。事業の変化のスピードが速くなっている中、それに対応できる即戦力が必要だということで中途採用の割合が高くなっているのですが、一方で、新卒の採用も増やして戦力として育てていきたいという考えもあります。千歳事業所でも人手不足が顕著ですし、2019年4月入社の新卒も190名という大量採用を予定しております。ぜひよろしくお願ひいたします。インターンシップも、できるだけ前向きに受け入れたいと思っております。

渡邊氏 新卒で入社された方が戦力とみなされるまでにはどのくらいの期間が必要でしょうか。

松田 部署にもよりますが、営業でも技術でも、やはり5年は続けてもらいたい。ある程度長い目で見る必要があると感じています。



千歳科学技術大学
専務理事 渡邊氏

渡邊氏 なるほど。わたしどもの調査では、相当数の卒業生が3年以内に離職しているという結果が出ているのですが、実情はどうなのでしょう。また離職を減らすために何か対策は講じておられますか。

松田 離職率は非常に低くて3.4%です。やはり、若い層からシニア世代まで、働きやすい職場だということではないかと自負しています。

久米 特に、千歳事業所はグループの中でも離職率は低いほうです。

坂井 ある従業員が「どうもこの業務は不向きだ」というときには、別の部署に移ることができることも、離職率が低い理由の一つだと思います。

松田 そうですね。自分から手を挙げて「他の部署に異動したい」と言える仕組みがあります。せっかくミネベアミツミで働くのであれば、やりたいことに取り組んでモチベーションを上げてもらったほうがいいと思うのです。

環境のまち・千歳の実現に向けて

石河 市が掲げるテーマの一つに「人と地球にやさしい環境のまち」とあることを千歳市のパンフレットで拝見しました。具体的にはどんな取り組みをされているのでしょうか。

島倉氏 2012年に市長の名前で環境宣言を行い、基本理念と行動指針を定めました。それに基づき、市独自の環境マネジメントシステム「エコアクション」を構築して、省エネルギーや環境負荷の低減に努めています。また、この取り組みを事業所に広げるため、千歳版環境マネジメントシステム認定制度「ECOちとせ」も創設。認定事業所も60社を超え、市全体で取り組みを進めているところです。

石河 今後、ぜひ連携ができればと思います。

坂井 環境に関連して一点お願いです。半導体事業は、クリーンルームを常に冷房で冷やす必要があります。千歳市は気温が低いので非常に有利ですが、それでもかなり大量の電力が必要になります。北海道は他の地域と比較して電気料金が安く、その意味ではデメリットになってしまいます。北海道電力様とも交渉は続けているのですが、同業他社など電力を必要とする企業がもっと増えれば状況も変わってくるのではないかと思いますので、できれば市のほうからも企業誘致を進めていただきたいと思います。それによって千歳市、北海道のさらなる活性化にもつながると思います。



ミネベアミツミ 石河

おわりに

松田 本日は貴重なお時間を割いていただき、たくさんのご意見をありがとうございました。千歳市から見て、地元はこのミネベアミツミがあることを誇りに思っているだけな会社を目指したいと思っております。そのためにもこれを機に、継続的なコミュニケーションを充実させ、いろいろとご指導・ご提案いただければと思っております。お互いに理解しあえる存在としてつながっていただければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。